



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂の基本的な考え方は、次のとおりです。

- ・平成26年2月に道徳教育の充実を図る観点から、道徳教育について改善の方向性が示された。
- ・これまでの「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」は、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図る。
- ・このような考え方を踏まえ、他教科や領域に先んじて平成30年4月から「特別の教科 道徳」（以下、道徳科という）として小学校において全面実施される。

※「考える道徳」とは、自分との関わりで道徳的価値を考えること

※「議論する道徳」とは、様々な考え方、感じ方に出会って自分自身の考え方、感じ方を深めること

目標の改善

小学校道徳科の目標は、次のとおりです。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」として、道徳教育の目標と目指す方向性が同一であることが明確になっています。

また、「道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる学習」「多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める学習」というように、学習活動が具体化されています。

そして、これらの学習を通じて、「道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度を育てる」という「よりよく生きていくための資質・能力を培う」という趣旨が明確に示されています。

内容の構成の改善・充実

内容項目のまとまりを示していた視点については、1～4と呼んでいたものをA～Dに変更し、3と4の順序を入れ替えました。これは、児童にとっての身近な自分自身から対象の広がりによって整理しています。

平成20年告示の学習指導要領 四つの視点

- 1 主として自分自身に関すること
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

新学習指導要領 四つの視点

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

〇各学年段階と内容項目の主な変更点

内容項目については、現代的な諸課題へ対応する視点や中学校との系統性を重視する視点から、各学年段階において、新たな内容項目が加えられるなどして、調整され、充実が図られています。

このことから学校段階や学年段階の発達課題などに即した指導が今まで以上に求められます。

〇第1・2学年（16項目から19項目へ変更）

- ・「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」の内容項目が追加された。

〇第3・4学年（18項目から20項目へ変更）

- ・「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」の内容項目が追加された。
- ・郷土及び国との関わりに関する内容項目を統合して、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」にした。
- ・「国際理解、国際親善」の内容項目が明記された。

〇第5・6学年（22項目）

- ・役割と責任に関する内容を「よりよい学校生活、集団生活の充実」の内容項目に包含した。
- ・「よりよく生きる喜び」の内容項目が追加された。

新学習指導要領では、構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げるなどの観点から、内容項目に手がかりとなる「善悪の判断、自律、自由と責任」等の見出しを付記しました。

2 小学校特別の教科 道徳の授業づくりのポイント

Point 1 「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善をしましょう。

道徳科においては、平成30年度から検定教科書を主たる教材として広く使用することになります。それを中心として活用しながら、「考え、議論する道徳」へ指導の一層の改善を図ることが大切です。

そうすることが、道徳科では、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善となります。

〈主体的な学びの視点〉

- ・児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見付けたりするように工夫する。
- ・道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力等を育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり、様々な方法で表現したりするなどの言語活動を充実する。

〈深い学びの視点〉

- ・児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義等について考えることができるようにする。

Point 2 指導のねらいに即した多様な指導方法を活用し授業改善をしましょう。

今回の改訂では、多様な指導方法として「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」などが例示されました。

○問題解決的な学習（例）

※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（報告）（H28 7）の「別紙1」から

ねらい	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
具体例	導入 ○問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題を考えるようにする。 ・今までの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本質を考えるような発問を行う。
	展開 ○問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて話し合うようにする。 ○探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） ・問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合うようにする。
	終末 ○まとめ ・教師による説話を行う。 ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、新たに分かったこと、学習で気付いたこと、学んだことを振り返るようにする。

授業づくりの際には、道徳科の目標、学級の実態、児童の実態を踏まえた上で、多様な指導方法を授業の主題やねらいに応じて適切に選択したり、効果的に組み合わせることが大切です。

3 特別の教科 道徳の評価について

学習活動における具体的な取り組み状況を、一定のまとまりの中で、学習活動全体を通して見取ります。

その際、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められます。

- 評価の視点……「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」といった点を重視する。
- 具体的な工夫…「ノート・ワークシート・感想文などのファイル」「児童の発言や様子などのエピソードの記録」など、取りためておいたものを見直すことで、評価に活用することが考えられる。



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂の基本的な考え方は、次のとおりです。

- 平成26年2月に道徳教育の充実を図る観点から、道徳教育について改善の方向性が示された。
- これまでの「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」は、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図る。
- このような考え方を踏まえ、他教科や領域に先んじて平成31年4月から「特別の教科 道徳」（以下、道徳科という）として中学校において全面実施される。

※「考える道徳」とは、自分との関わりで道徳的価値を考えること

※「議論する道徳」とは、様々な考え方、感じ方に出会って自分自身の考え方、感じ方を深めること

目標の改善

中学校道徳科の目標は、次のとおりです。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」として、道徳教育の目標と目指す方向性が同一であることが明確になっています。

また、「道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる学習」「物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」というように、学習活動が具体化されています。

これらの学習を通じて、「道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度を育てる」という「よりよく生きていくための資質・能力を培う」という趣旨が明確に示されています。

内容の構成の改善・充実

内容項目のまとまりを示していた視点については、1～4と呼んでいたものをA～Dに変更し、3と4の順序を入れ替えました。これは、生徒にとっての対象の広がり即して整理したためです。

現行学習指導要領 四つの視点

- 主として自分自身に関すること
- 主として他の人とのかかわりに関すること
- 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること
- 主として集団や社会とのかかわりに関すること

新学習指導要領 四つの視点

- 主として自分自身に関すること
- 主として人との関わりに関すること
- 主として集団や社会との関わりに関すること
- 主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること

新学習指導要領 内容項目一覧

A	(1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長 (4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造
B	(6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容
C	(10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神 (13) 勤労 (14) 家族愛、家庭生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実 (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 (18) 国際理解、国際貢献
D	(19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び

内容項目とは、中学校の3年間に生徒が人間として他者とともによりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものです。

構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げることや、内容項目が多くの人に理解され、家庭や地域の人とも共有しやすいものとするなどの観点から、例えば「A(1)自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」という内容項目に対し、手がかりとなる「自主、自律、自由と責任」等の言葉を付記しました。

2 中学校特別の教科 道徳における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

「特別の教科 道徳」においては、「考え、議論する道徳」へ指導の一層の改善を図ることが大切です。そうすることが、「特別の教科 道徳」では、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善となります。

〈主体的な学びの視点〉

- ・生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるように工夫する。その際、生徒が道徳的な内容に興味・関心をもち、自分の判断や生き方と関わらせながら自らが考え、理解できるようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力等を育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実する。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設ける。そして、生徒が多様な「見方や考え方」に接しながら、更に新しい「見方や考え方」を生み出していくことができるようにする。

〈深い学びの視点〉

- ・生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れるなど、指導方法を工夫する。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義等について考えることができるようにする。

Point 2 道徳科の特質を生かした学習指導をしましょう。

生徒一人一人がねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。

道徳科の学習指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には次のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。学級の実態、指導の内容や教師の指導の意図等に合わせ弾力的に扱うことが大切です。

導入

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、ねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方について、生徒一人一人の自覚に向けて動機付けを図る段階です。

- ・問題意識をもたせる工夫……経験の想起、本時の主題に関わるキーワードの話し合いなど
- ・興味や関心をもちさせる工夫……教材に出てくる代表的な人物や時事の話題の提示など

展開

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める段階です。

- ・発問の工夫……生徒の思考を予想しそれに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問など
- ・話し合いの工夫……考えを出し合う・まとめる・比較するなどの目的に応じて進める話し合いなど
- ・表現する活動の工夫……生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技、動きやせりふのまねをして理解を深める動作化など

終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげたりする段階です。

- ・書く活動の工夫……生徒が自ら考えを深めたり整理したりする活動に必要な時間の確保など
- ・説話の工夫……教師の体験談や願い、生徒の日常生活における身近な話題など

3 特別の教科道徳の評価について

学習活動における具体的な取り組み状況を、一定のまとまりの中で、学習活動全体を通して見取ります。その際、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められます。

- 評価の視点……「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」といった点を重視する。
- 具体的な工夫……「ノート・ワークシート・感想文等のファイル」「生徒の発言や様子等のエピソードの記録」など、取りためておいたものを見直すことで、評価に活用することが考えられる。